

# さきん 会社説明会

「お客さまとともに、地域の未来を創造する銀行」を目指して

平成30年11月

※本編は平成30年6月に開催いたしました会社説明会の資料の一部について  
計数に関する部分を平成30年9月期の計数に置き換えたものです。

このまちで、あなたと  
 佐賀銀行

# 目次

---

1. 平成30年度中間期損益の状況	...	3
2. 預貸金の状況	...	5
3. 有価証券の状況	...	6
4. 不良債権比率の推移	...	7
5. 自己資本比率の推移	...	8
6. 統合的リスク管理	...	9

# 1. 平成30年度中間期損益の状況①

(単位:百万円)

項 目	番号	平成29年度 中間期	平成30年度 中間期	前年比	備 考	
業務粗利益	1	12,007	9,936	△ 2,071		
資金利益	2	12,017	12,097	+80	貸出金平残【除く地公体・政府系】	+4.7% (+618億円)
資金運用収益	3	12,295	12,312	+17	貸出金平残【除く地公体】(佐賀・長崎)	+4.2% (+247億円)
貸出金利息	4	9,164	9,249	+85	貸出金平残【除く地公体】(福岡)	+7.3% (+436億円)
(貸出金利息【除く地公体・政府系】)		(8,667)	(8,814)	(+147)	貸出金利回り	1.257%→1.171% (△0.086%)
有価証券利息配当金	5	3,037	2,985	△ 52	貸出金利回り【除く地公体・政府系】	1.331%→1.292% (△0.039%)
その他	6	93	78	△ 15		
資金調達費用	7	278	215	△ 63	預金等平残	+2.7% (+596億円)
預金等利息	8	245	157	△ 88	預金等利回り	0.022%→0.014% (△0.008%)
その他	9	32	57	+25	総資金利鞘	0.08% (前年比+0.03%ポイント)
役務取引等利益	10	1,122	1,029	△ 93		
役務取引等収益	11	3,022	3,021	△ 1	投資信託関係 △83	保険関係 +56
"    費用	12	1,899	1,991	+92	住宅ローン等保険料 +17	ローン関係保証料 +28
特定取引利益	13	16	27	+11		
その他業務利益	14	△ 1,149	△ 3,217	△ 2,068		
経費	15	11,298	11,201	△ 97	人件費 △259	物件費 +100
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	16	708	△ 1,264	△ 1,972	有価証券ポート良化策の増加	△ 1,937
クレジットコスト	17	△ 1,205	1,613	+2,818	クレジットコスト	= 0.20%(前年比+0.36%ポイント)
一般貸倒引当金繰入額	18	0	541	+541	貸出金平残	
個別    "    "	19	0	1,051	+1,051		
債権売却損等	20	26	20	△ 6		
貸倒引当金戻入益	21	1,232	0	△ 1,232		
その他の臨時損益	22	130	4,879	+4,749	株式売却損益	+4,748
経常利益	23	2,044	2,000	△ 44		
特別損益	24	△ 23	569	+592	固定資産処分損益	+617
税引前当期純利益	25	2,020	2,570	+550		
法人税等・法人税等調整額	26	△ 101	841	+942		
当期純利益	27	2,122	1,728	△ 394		

	H29年度 中間期	H30年度 中間期	前年比
17 クレジットコスト	△ 1,205	1,613	2,818
18 一般貸引繰入	456	541	85
19 個別貸引繰入	442	1,051	609
個別貸引戻入	2,130	—	△ 2,130
20 債権売却損等	26	20	△ 6

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

# 1. 平成30年度中間期損益の状況②

## 業務純益についての補足説明

(単位: 百万円)

項目	No.	29年度中間期	30年度中間期	前年比	備考
業務純益(2+12)	1	708	△ 1,806	△ 2,514	ポートフォリオ良化策に伴う債券売却損が主因 ✓
一般貸引繰入前業務純益(3+11)[実質業務純益]	2	708	△ 1,264	△ 1,972	ポートフォリオ良化策に伴う債券売却損が主因 ✓
コア業務純益	3	1,746	1,707	△ 39	
資金利益	4	12,017	12,097	80	
役務取引等利益	5	1,122	1,029	△ 93	
特定取引利益	6	16	27	11	
その他業務利益【除く国債等関係損益】	7	△ 111	△ 245	△ 134	
外国為替売買損益	8	△ 125	△ 270	△ 145	
その他	9	13	25	12	
経費(△)	10	11,298	11,201	△ 97	
国債等関係損益(5勘定戻)	11	△ 1,037	△ 2,971	△ 1,934	ポートフォリオ良化策に伴う売却損 ✓
一般貸倒引当金繰入額(△)	12	—	541	541	
臨時損益	13	1,335	3,806	2,471	
うち 株式等関係損益(3勘定戻)	14	40	4,793	4,753	株式売却益等 ✓
うち 与信費用【除く一般貸倒引当金】	15	△ 1,661	1,072	2,733	
経常利益(1+13)	16	2,044	2,000	△ 44	

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

株式売却益を原資とするポートフォリオ良化策を実施。

## 2. 預貸金の状況

### 1. 貸出金の状況

(単位:百万円)

		平成29年度上期	平成30年度上期	前年比
貸出金全体	平残	1,453,456	1,574,173	+120,717
	利回り	1.257%	1.171%	△ 0.086%
	利息	9,164	9,249	+85
うち事業性	平残	861,605	917,188	+55,583
	利回り	0.987%	0.971%	△ 0.016%
	利息	4,267	4,465	+198
うち住宅ローン	平残	341,156	349,325	+8,169
	利回り	1.230%	1.182%	△ 0.048%
	利息	2,104	2,071	△ 33
うち消費者ローン	平残	47,888	47,610	△ 278
	利回り	7.421%	7.404%	△ 0.017%
	利息	1,781	1,767	△ 14

貸出金全体 (除く地公体・政府系)		平成29年度上期	平成30年度上期	前年比
平残		1,298,463	1,360,290	+61,827
利回り		1.331%	1.292%	△ 0.039%
利息		8,667	8,814	+147

※ 百万円未満は切り捨てて表示しております。

※ 貸出金の状況における事業性貸出金、住宅ローン、消費者ローンの平残については、管理会計の正常貸出金ベースで作成しております。

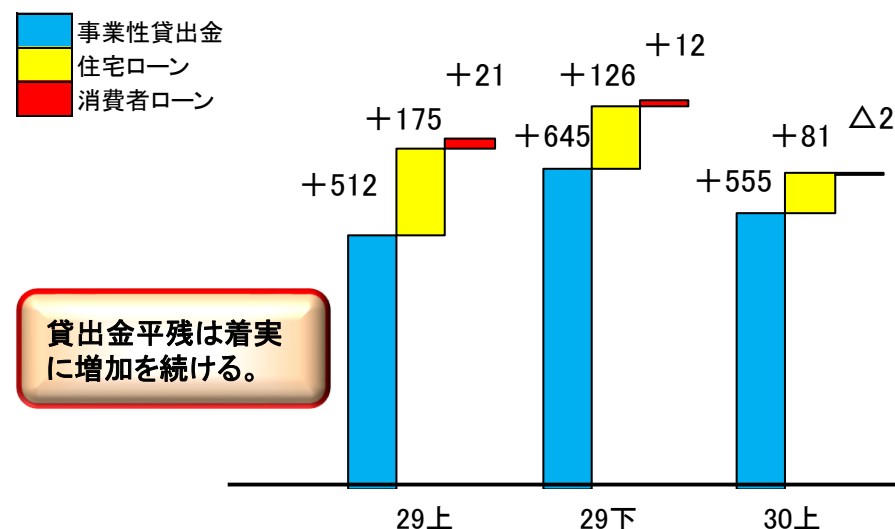
### 2. 預金等の状況

(単位:百万円)

		平成29年度上期	平成30年度上期	前年比
預金等全体	平残	2,182,426	2,242,071	+59,645
	利回り	0.022%	0.014%	△ 0.008%
	利息	245	157	△ 88
うち個人預金	平残	1,457,895	1,490,587	+32,692
うち法人預金	平残	560,659	587,426	+26,767

※ 百万円未満は切り捨てて表示しております。

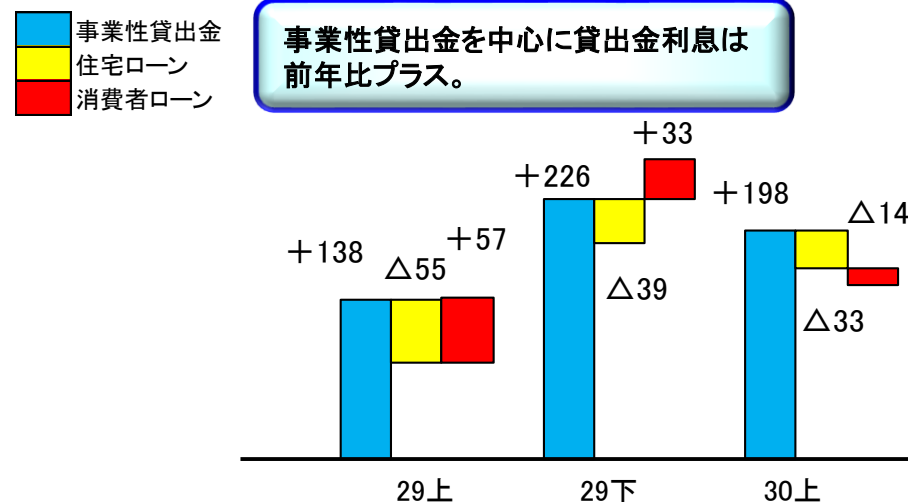
### 《貸出金平残半期別前年比》【営業店合計】



貸出金平残は着実に増加を続ける。

※ 単位は億円、億円未満は切り捨てて表示しております。

### 《貸出金利息半期別前年比》【営業店合計】

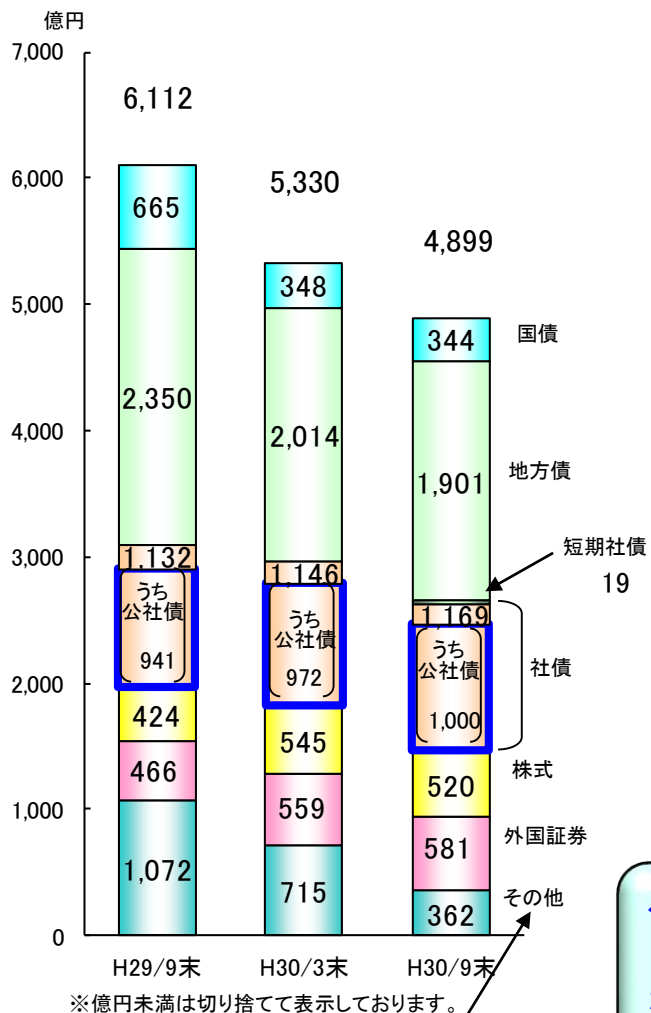


事業性貸出金を中心に貸出金利息は前年比プラス。

※ 単位は百万円、百万円未満は切り捨てて表示しております。

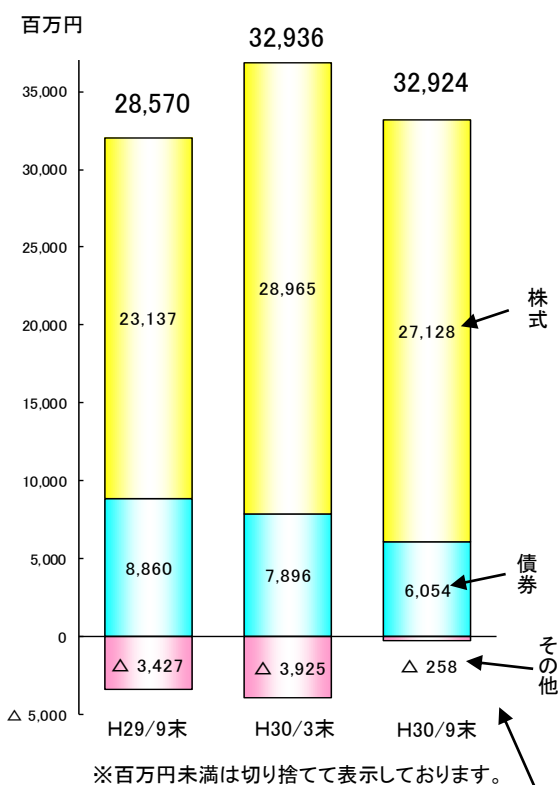
# 3. 有価証券の状況

## 1. 有価証券残高 (BS計上額)



「その他」の内訳  
 REIT 54  
 その他の投資信託 288  
 投資事業組合 20

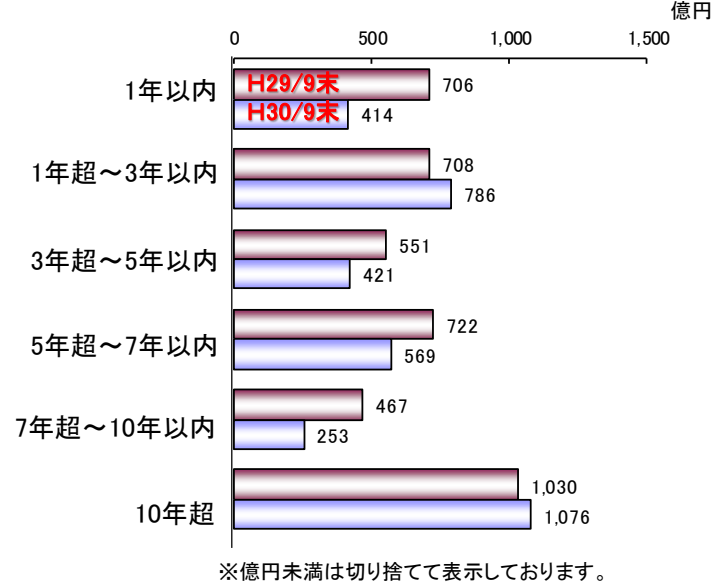
## 2. 「その他有価証券」の評価損益



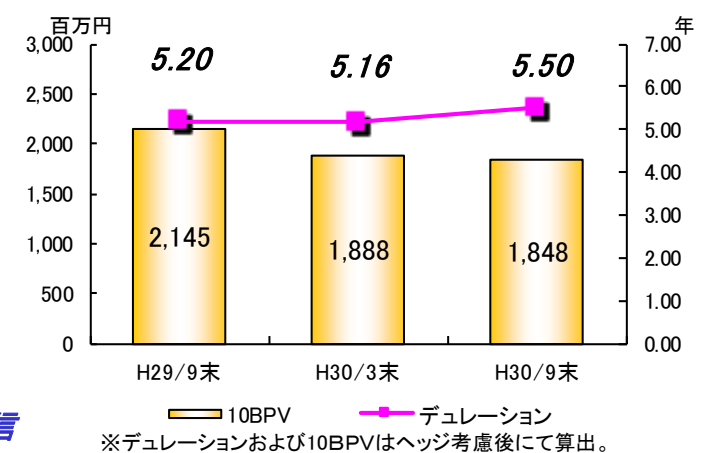
ポートフォリオ良化策により評価損が減少。  
 その他のうち金利リスクヘッジのための  
 債券ベアファンドで「△402」

うち「25」は金利リスクヘッジのための債券ベア型投信

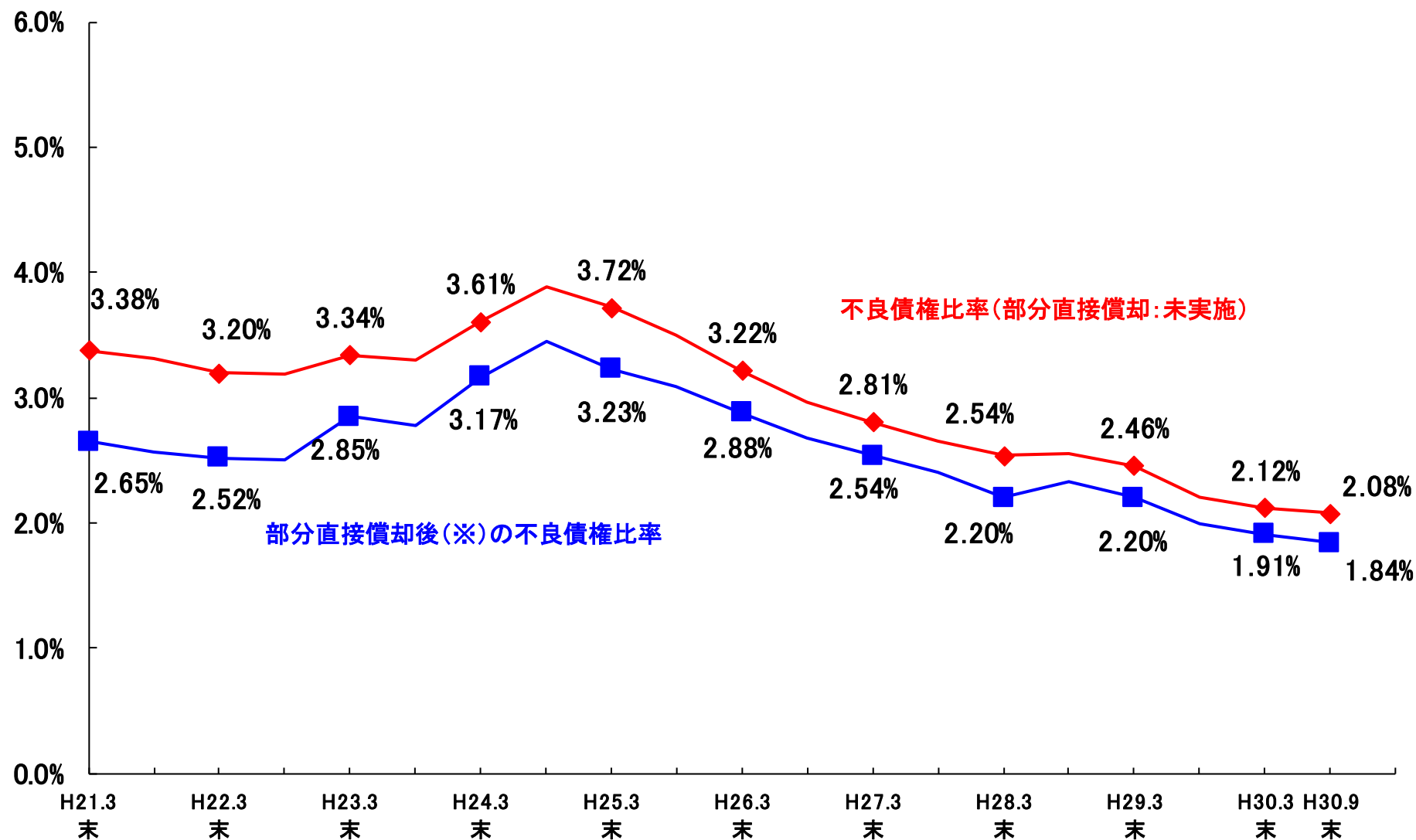
## 3. 円建債券の残存期間別残高



## 4. 円建債券の平均残存期間と10BPV



## 4. 不良債権比率の推移



※部分直接償却とは

自己査定により回収不可能又は無価値と判定した担保・保証付債権等について、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額(IV分類金額)を取立不能見込額として債権額から直接減額すること。

※当行は「部分直接償却」を実施していないため、IV分類金額と同額の貸倒引当金を計上している。

# 5. 自己資本比率の推移

【単体】

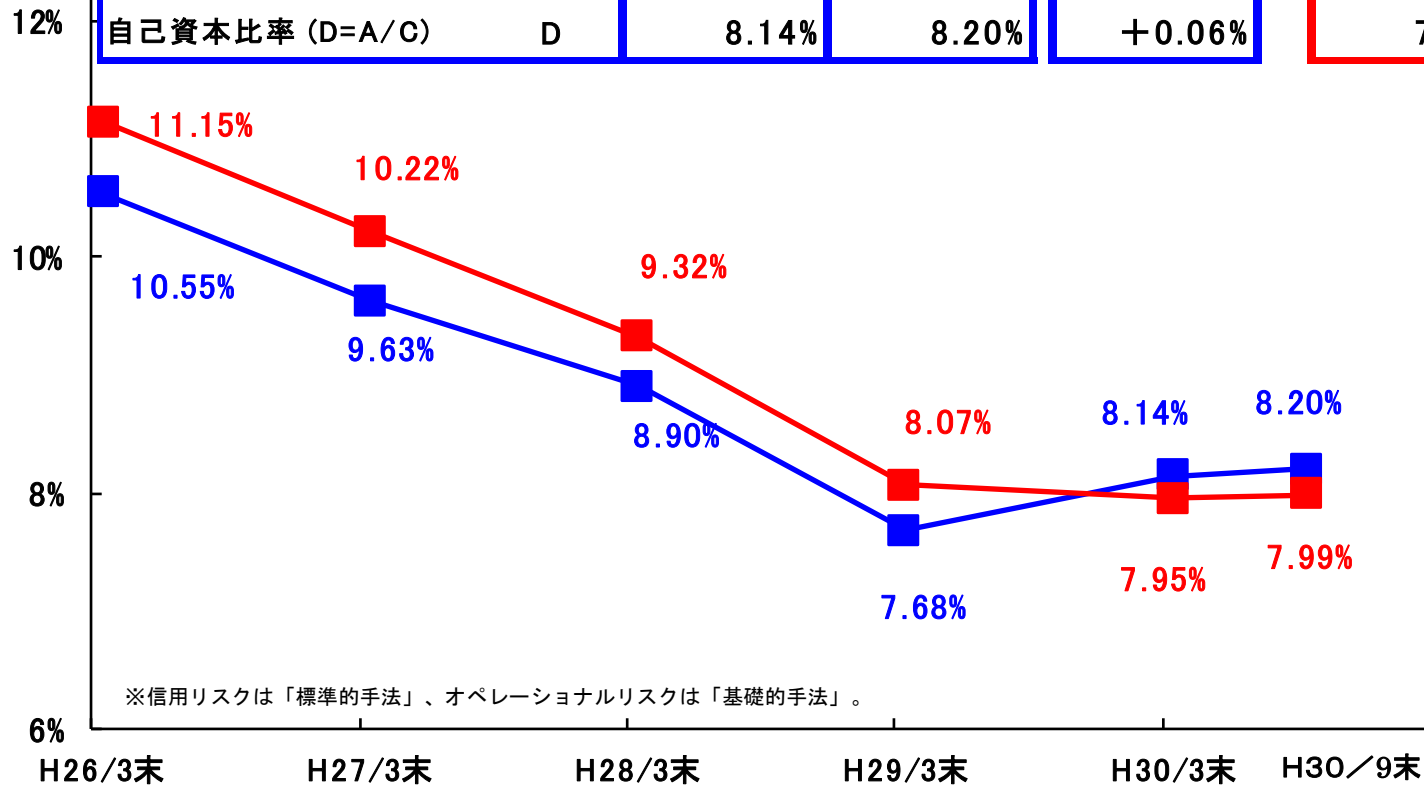
(単位:百万円)

【連結】

(単位:百万円)

		H30/3末	H30/9末	(H30/3末比)
自己資本	A	106,007	106,959	+952
(うち劣後ローン算入額)	B	1,500	0	△ 1,500
リスクアセット	C	1,301,436	1,304,351	+2,915
自己資本比率 (D=A/C)	D	8.14%	8.20%	+0.06%

	H30/3末	H30/9末	(H30/3末比)
自己資本	103,778	104,505	+727
(うち劣後ローン算入額)	1,500	0	△ 1,500
リスクアセット	1,304,011	1,307,026	+3,015
自己資本比率	7.95%	7.99%	+0.04%



## <単体自己資本比率>

- ・劣後ローン返済するも利益の積み上げにより自己資本は増加
- ・中小企業向け貸出金の増加を主因にリスクアセットは増加

## <連結自己資本比率>

- ・前年度の完全子会社化に伴い、それ以前まで自己資本に算入していた非支配株主持分(外部株主の持分)を連結消去したこと等により単体に比べ、自己資本の増加が抑えられた
- ※非支配株主持分(外部株主の持分)は自己資本規制対象であり、資本算入可能額は年々通減(完全子会社化により非支配株主持分は全て当行持分となり連結消去の対象となった)

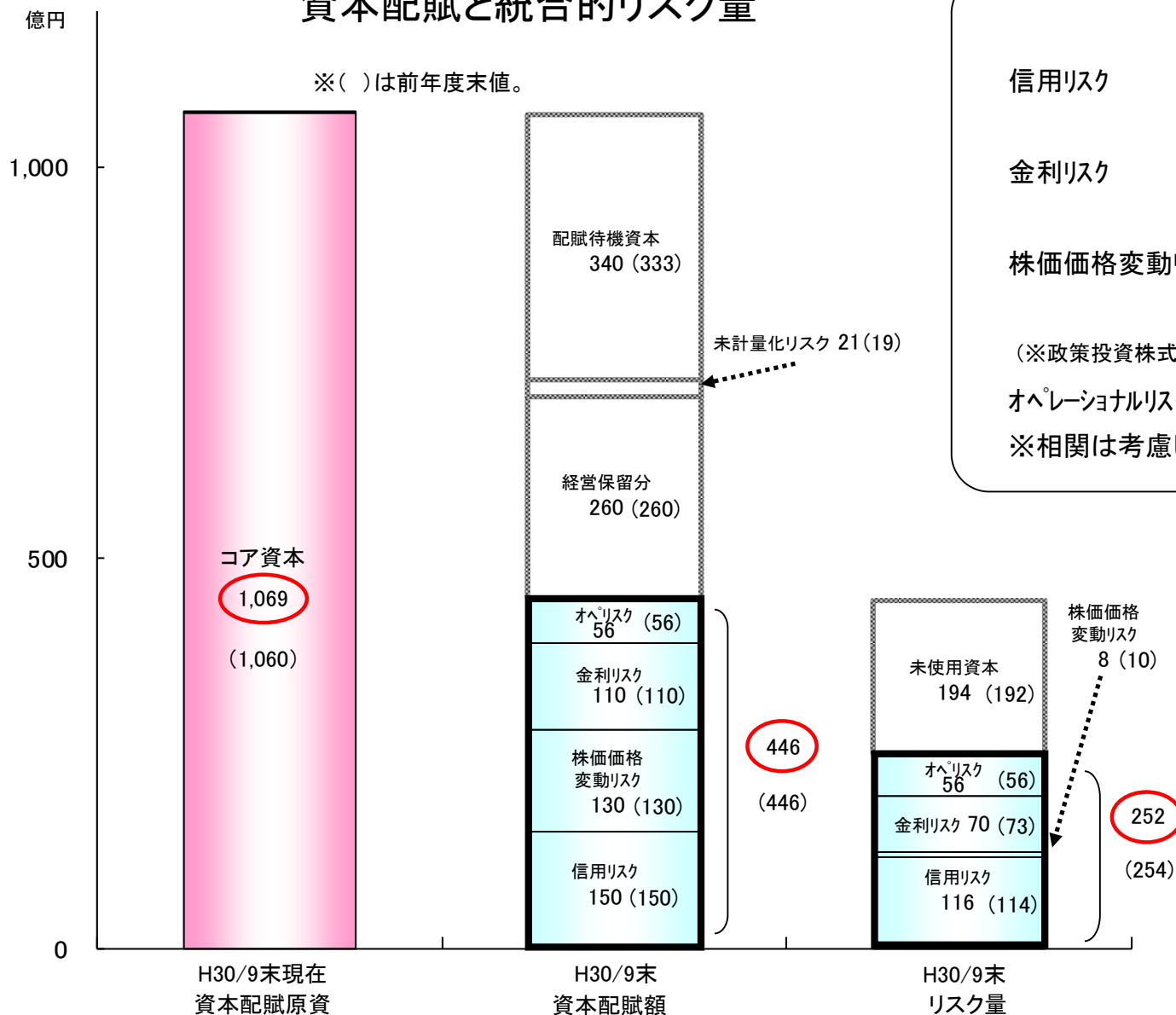
## <資本政策の基本方針>

当行は経営の健全性維持の観点から、内部留保の充実を図り必要な経営体力を維持していくとともに、持続的な株主価値の向上を図る観点から資本効率を意識した資本政策を実施していきます。また、配当につきましては、長期にわたる安定的な経営基盤の確保に努め、安定配当を行うことを基本方針としております。



# 6. 統合的リスク管理

## 資本配賦と統合的リスク量



### リスク計測基準

信用リスク	… 保有期間	1年
	… 信頼区間	99%
金利リスク	… 保有期間	1～60日
	… 信頼区間	99%
株価価格変動リスク	… 保有期間	20～125日
	… 信頼区間	99%

(※政策投資株式のリスク量=政策投資株式VaR-その評価損益)

オペレーションリスク … 基礎的手法

※相関は考慮していません。

### アウトライヤー比率 (H30/9末)

金利リスク量 (億円)	自己資本 (億円)	アウトライヤー比率
32 (26)	1,069 (1,060)	3.03% (2.49%)

※計測方法: 完全再評価方式 ※金利ショック幅: パーセンタイル値

※コア預金: 内部モデルにて計測 ※億円未満は切り捨て

※下段の( )は前年度末値

※億円未満は切り捨てにて表示

【お問い合わせ先】

株式会社 佐賀銀行  
総合企画部  
担当 大串、波多江

TEL 0952-25-4553

本資料に記載された将来の予測等は資料作成時点の当行の判断であり、将来の業績等を保証するものではありません。今後、経営環境の変化などにより、変更される可能性があることにご留意ください。また、本資料は当行の財務状況および今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。